

## 2021年度 決算説明会 質疑応答（要旨）

---

**Q1**：今期の印刷用紙や段ボール原紙の数量は、おおよそどうなりそうか。昨年、公表した値上げは、想定どおりで浸透しているのか。

**A1**：数量の見通しは、景気の動向が不透明であり、コロナも終息している状況ではないので、コメントは控えたい。値上げについては、計画どおり進捗したと考えている。

**Q2**：Opal社に関しては収益の改善を期待していいのか。

**A2**：Opal社については、販売数量は緩やかに回復してきているものの、想定しているよりも回復が遅いというのが現状。収益の持ち上がりが計画に対して遅れているのは、主にこの部分と分析している。

**Q3**：国内グラフィック用紙の生産能力削減を先取りして取り組むという説明があったが、これによって、どのくらい固定費の削減効果を積み増すことができるのか。

**A3**：生産体制再編成によるコスト効果は、その規模によって変わってくるので、現時点で定量的な回答をするのは控えたい。効果を最大にするやり方をしないといけないというのと同時に、ただ停機するのではなく、それを別の事業に生かしていかないと意味がない。相乗効果が出てくるようにしていかなければいけない。

**Q4**：石炭価格が高すぎるという理由で、減産になることはあり得るのか。

**A4**：現時点では、すぐに減産とは考えていない。生産効率の改善によって石炭を減らしていこうと考えている。

**Q5**：紙の値上げが浸透した分、数量減の影響が大きくなっていないかを心配している。値上げ後の引き合いはどのような状況か。

**A5**：予想した程度の落ち込みは続いているが、値上げによって販売数量の大きな減少が始まっているという感触はない。

**Q6**：エネルギー事業の利益がかなり落ち込んでいる。石巻エネルギーセンターは、バイオマスと石炭の混焼だと思うが、仮に高い価格の石炭になると、エネルギー事業が赤字になるリスクはあるのか。考え方を教えてほしい。

**A6**：石巻エネルギーセンターは、昨年5月・今年3月と地震が2回あり、発電量が減った。また、石炭価格の転嫁は、どうしてもタイムラグが出てしまう。現在の上がり基調の中では価格転嫁が追いついてないという部分はあるが、タイムラグがあるので、きちっと利益が出てくると考えている。

- Q7**：石炭価格は、今日（5/13）のスポットでいくと 390 ドル台まで上がっている。ここまできると、バイオマス発電の相対的なコスト競争力が出てくると思うが、ここでの事業機会みたいなものはあるか。
- A7**：バイオマス燃料、木質燃料については、すでに手一杯やっているのが実態。これ以上となると、コストをかけて、山で放置されている木を出してくるとかになる。

以 上